

仏像に宿る心

中学校 3年 美術
「仏像に宿る心」
教科での使用

ねらい

- 仏像の顔や手の表情、形や材質、質感、空間などに着目し、印象などをとらえる。
- 仏像彫刻の良さや美しさ、作者の意図と創造的な工夫・美術文化の継承と創造について鑑賞する。
- 仏像彫刻の特色、良さや美しさなどに関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組む。

学習展開

- ① 仏像の魅力はどこから感じられるのかを考える。
- ② 顔や手の表情に込められた人々の思いを話し合う。
- ③ 図書を活用し、顔や手がもたらす効果や、形や材料、質感・空間などに視点を当て、自己との対話を重ねながら造形的な良さや美しさなどを感じ取る。
- ④ 日本文化の大まかな時代の流れや表現の特質を見ていき、日本美術の概括的な変遷を捉えることを通して各時代における人々の感じ方や考え方、生き方や願いなどを感じ取る。
- ⑤ 仏像の造形の要素などに着目し、材料の性質や質感、構成の美しさを理解し、スケッチする。
- ⑥ 仏像スケッチを原画として、布に描くという新しい描画材にチャレンジし、エコバックを完成させる。



上：資料の説明を聞く
中：資料を見て模写
下：完成したエコバック



司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は授業者の依頼で関連資料を準備。
- 学校司書が授業の冒頭に、飛鳥時代や奈良時代から時代を経て、次第に変容していき、平安時代や鎌倉時代に日本的な美術文化を誕生させてきたという独自の流れに関連付けた図書館資料を紹介した。生徒が関心をもって鑑賞できるよう、原寸大や本物に近い色彩の資料を準備した。

指導のポイント

- 空間の効果、質感や動性などを捉えることが、重要な視点である。
- 先人の感性や美意識を活かし、新たな感じ方や感性を育てることにつなげていく。
- 修学旅行などを通して実感を伴いながら理解できるようにする。

資料

『原色日本の美術』小学館 『日本美術全集』学研 『日本の仏像』西東社 『仏像がわかる絵事典』PHP 研究所 『教科書に出てくる歴史ビジュアル実物大図鑑』ポプラ社 『仏像ワンダーランド京都滋賀』JTB パブリッシング 他